

男女共同参画パネル展 シールアンケート集計結果

実施日：平成30年6月18日（月）～6月29日（金）

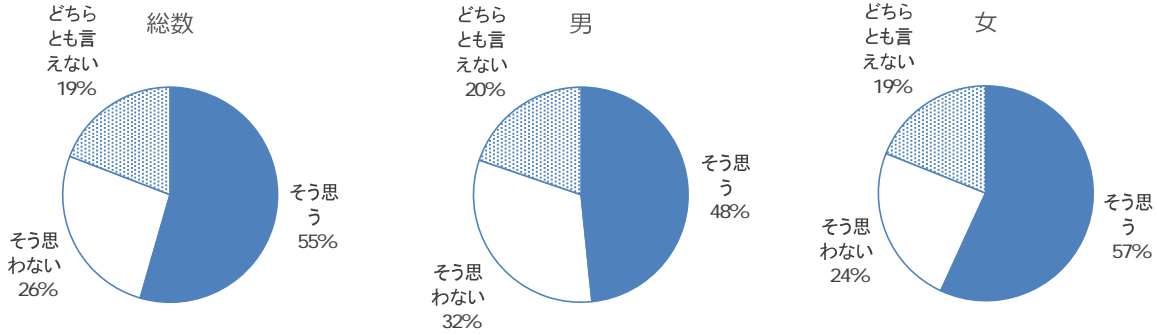
実施場所：市役所ロビー、中央公民館、西河原公民館、こまえくぼ1234、和泉児童館、子ども家庭支援センター、市民モニター

回答者数：337人

テーマ：子育て

問1 子どもと1日過ごせる父親は、偉いと思う。

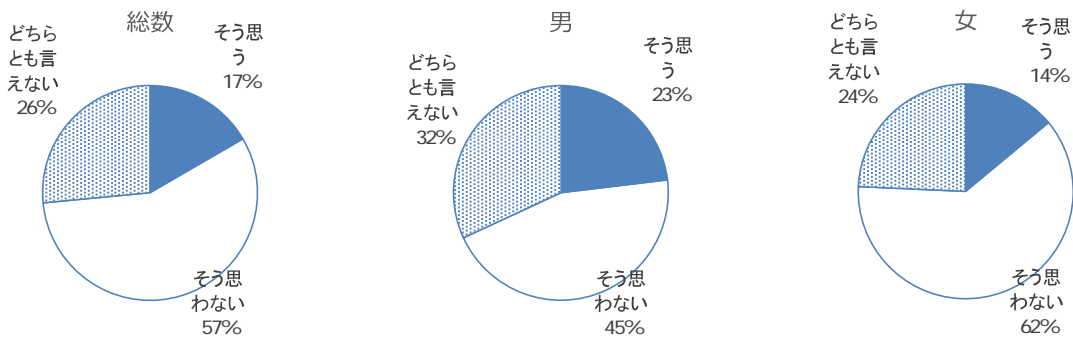
そう思う				そう思わない				どちらとも言えない			
総数	男	女		総数	男	女		総数	男	女	
176	54%	44	132	85	26%	29	56	62	19%	18	44



問2 「赤ちゃん・ふらっと」には、男性は入らないほうが良いと思う。

※「赤ちゃん・ふらっと」とは、東京都が公共施設等へ整備を進める授乳やおむつ替え等ができるスペースの愛称。

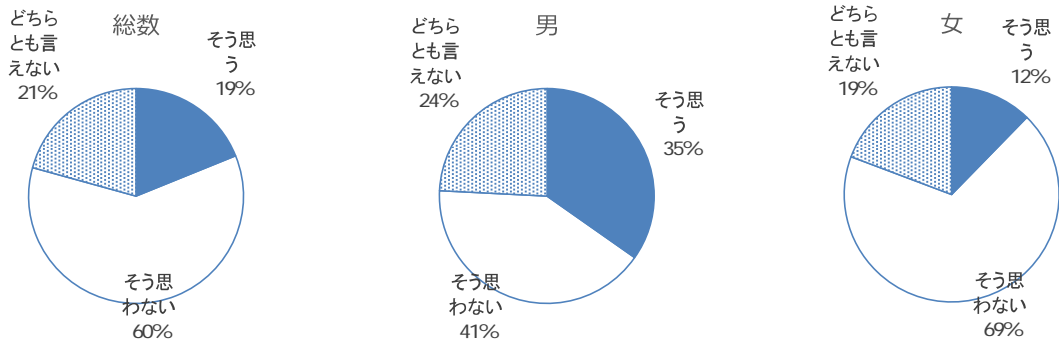
そう思う				そう思わない				どちらとも言えない			
総数	男	女		総数	男	女		総数	男	女	
52	17%	21	31	178	57%	41	137	83	27%	29	54



テーマ：LGBT

問3 小さい男の子がピンクのかばんを選んだら、違う色を薦めると思う。

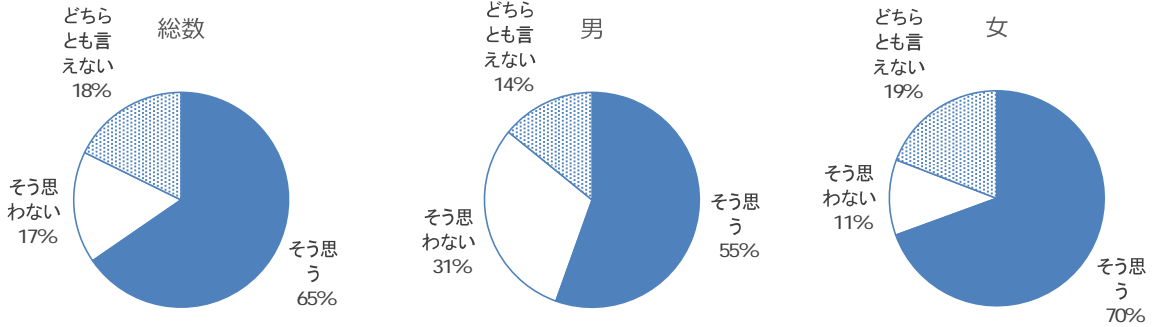
そう思う				そう思わない				どちらとも言えない			
総数	男	女		総数	男	女		総数	男	女	
61	19%	33	28	195	60%	39	156	67	21%	23	44



テーマ：会社

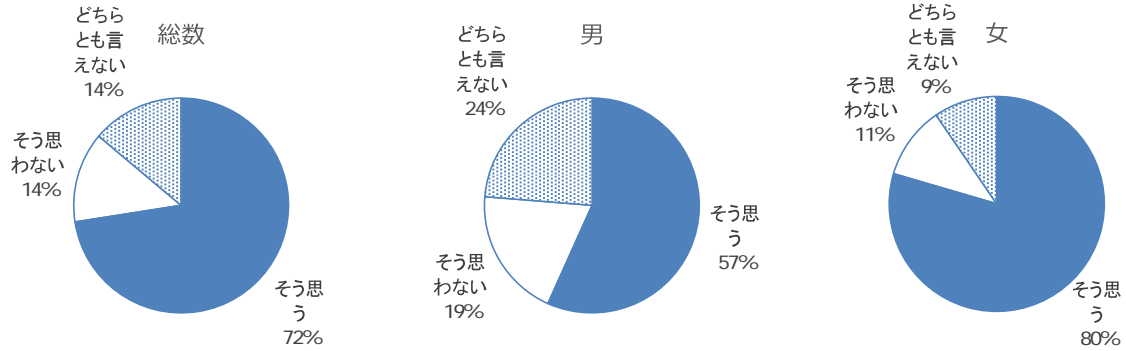
問4 採用や昇進は、男性の方が優遇されていると思う。

そう思う			そう思わない			どちらとも言えない					
総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女			
210	65%	51	159	54	17%	28	26	57	18%	13	44



問5 育児や介護のための時短勤務や育児・介護休暇は、女性の方がとりやすいと思う。

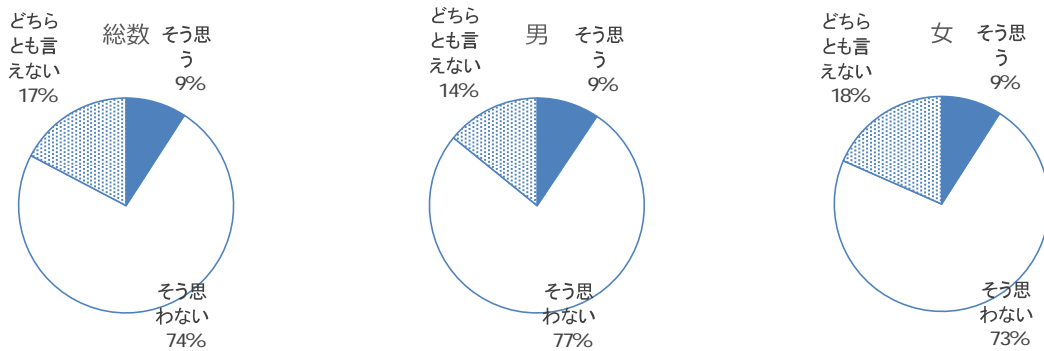
そう思う			そう思わない			どちらとも言えない					
総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女			
230	73%	55	175	43	14%	19	24	44	14%	23	21



テーマ：地域活動

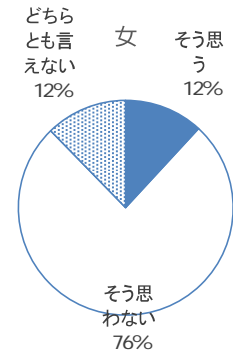
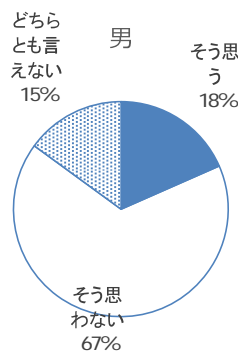
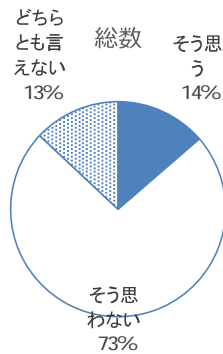
問6 ボランティア活動は、女性の方が向いていると思う。

そう思う			そう思わない			どちらとも言えない					
総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女			
30	9%	8	22	242	74%	65	177	57	17%	12	45



問7 地域の防災活動は、男性の役割だと思う。

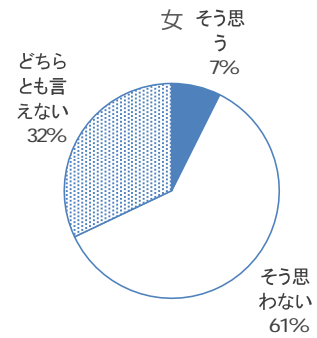
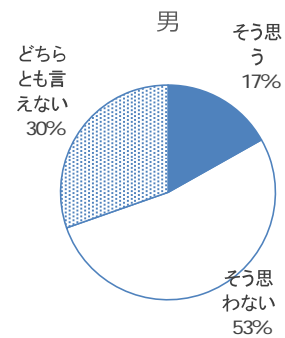
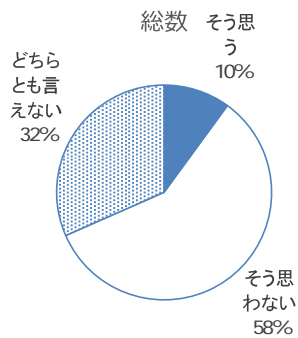
そう思う				そう思わない				どちらとも言えない			
総数		男	女	総数		男	女	総数		男	女
43	14%	16	27	231	73%	58	173	41	13%	13	28



テーマ：介護

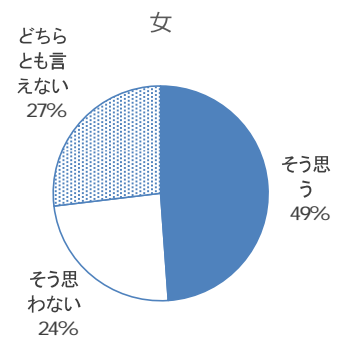
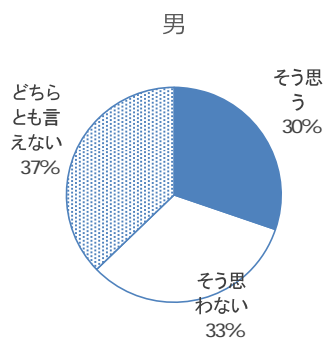
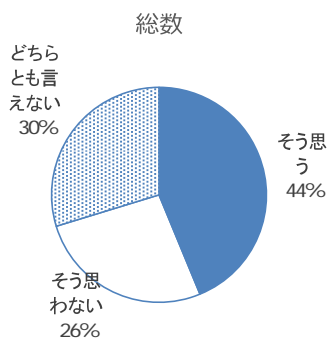
問8 高齢者の介護に向いているのは女性だと思う。

そう思う				そう思わない				どちらとも言えない			
総数		男	女	総数		男	女	総数		男	女
32	10%	15	17	187	58%	47	140	101	32%	27	74



問9 介護されるなら女性にしてみたいと思う。

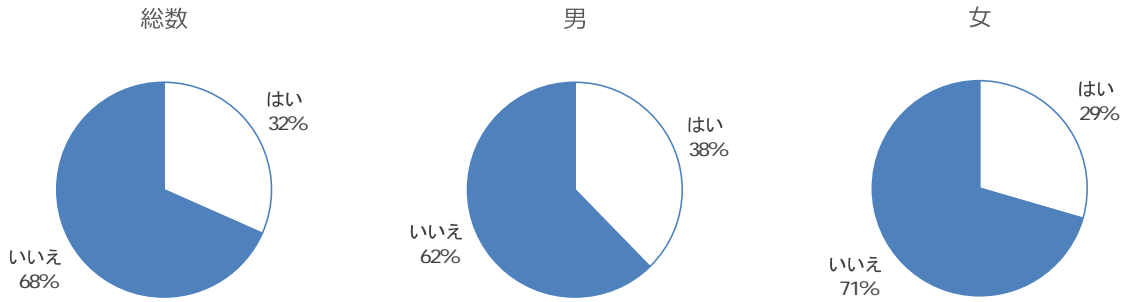
そう思う				そう思わない				どちらとも言えない			
総数		男	女	総数		男	女	総数		男	女
137	44%	26	111	83	27%	28	55	93	30%	32	61



テーマ：狛江市の取り組み

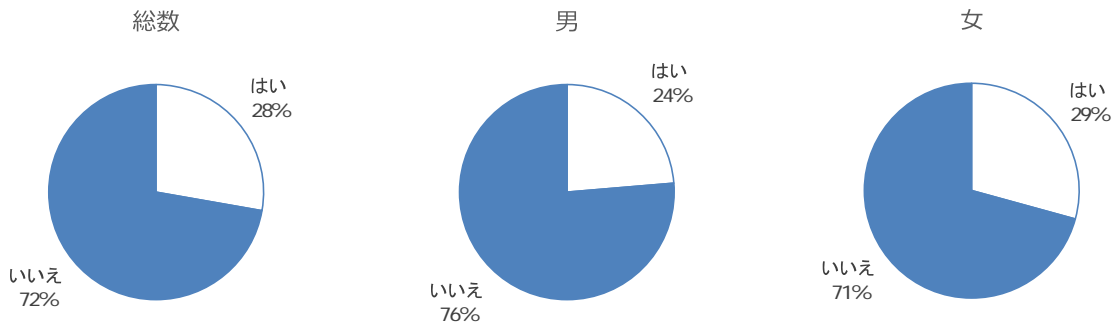
①毎年、男女共同参画推進フォーラムを開催していることは、知っていますか？

はい				いいえ			
総数	男	女	総数	男	女		
93	32%	29	64	201	68%	48	153



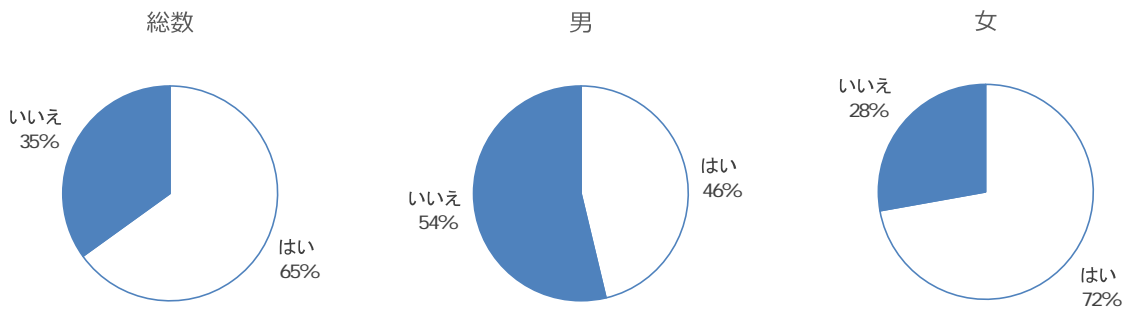
②「女性のためのカウンセリング」を行っているのは、知っていますか？

はい				いいえ			
総数	男	女	総数	男	女		
80	28%	18	62	208	72%	58	150



③子育て支援に関する情報を載せている「こまえ子育てネット」は、知っていますか？

はい				いいえ			
総数	男	女	総数	男	女		
190	65%	37	153	102	35%	43	59

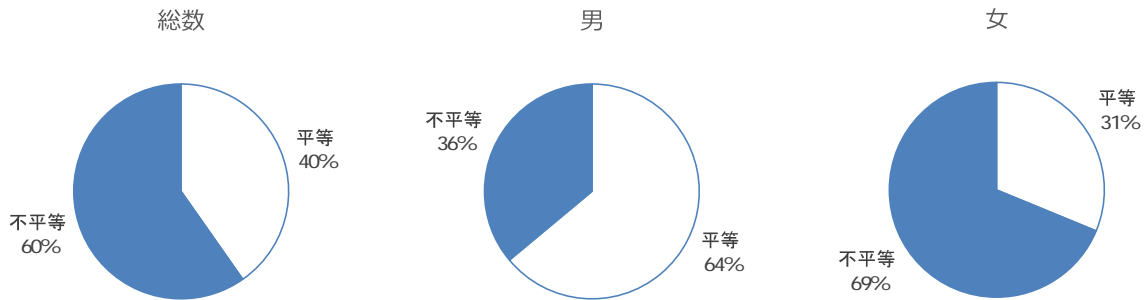


テーマ：その他

①あなたは、以下のそれぞれの分野について、男女平等であると感じますか？それとも不平等であると感じますか？

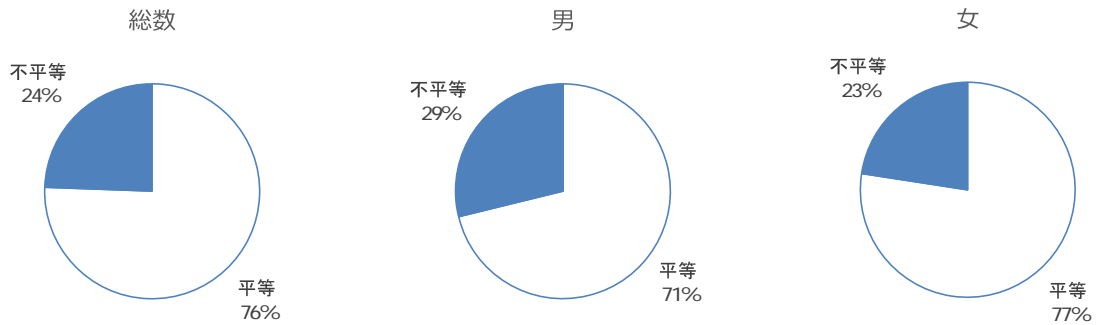
i. 家庭

平等				不平等			
総数	男	女	総数	男	女		
89	40%	39	50	132	60%	22	110



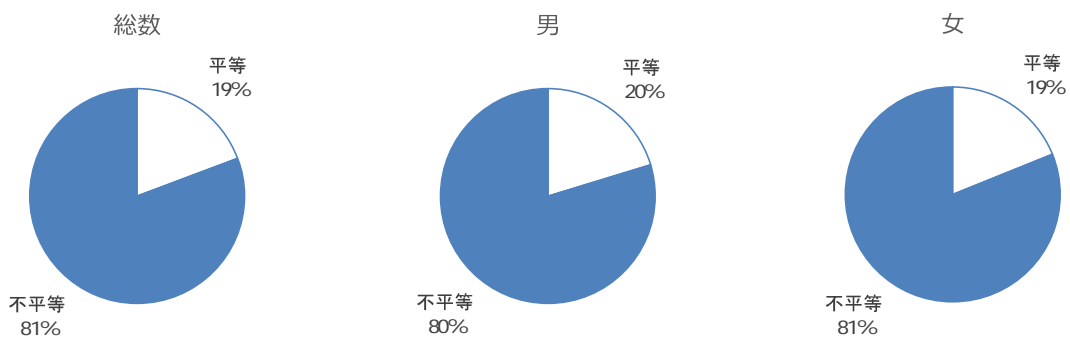
ii. 学校

平等				不平等			
総数	男	女	総数	男	女		
155	76%	42	113	50	24%	17	33



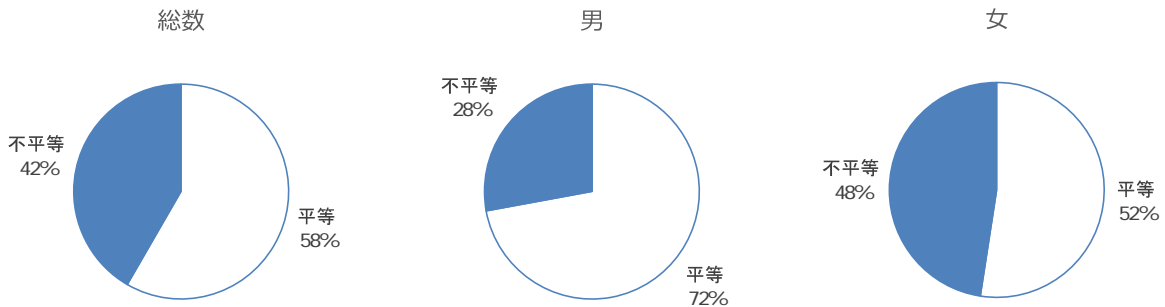
iii. 会社（募集・採用・昇進・育休）

平等				不平等			
総数	男	女	総数	男	女		
43	19%	13	30	180	81%	51	129



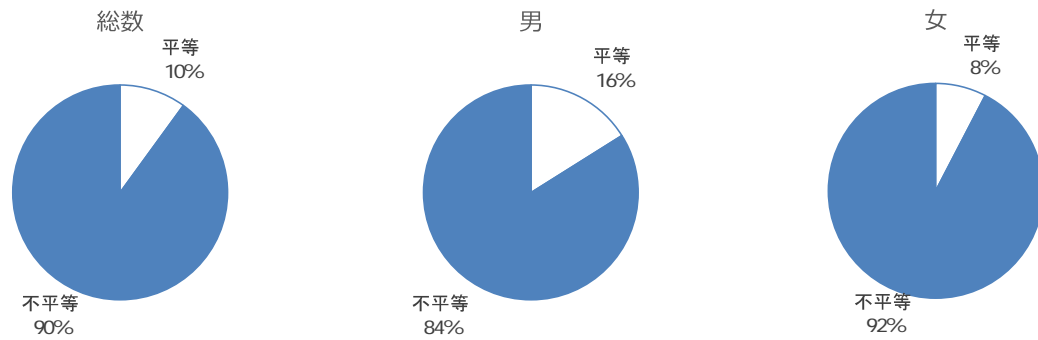
iv. 地域（自治会・ボランティア）

平等				不平等			
総数		男	女	総数		男	女
119	58%	44	75	85	42%	17	68



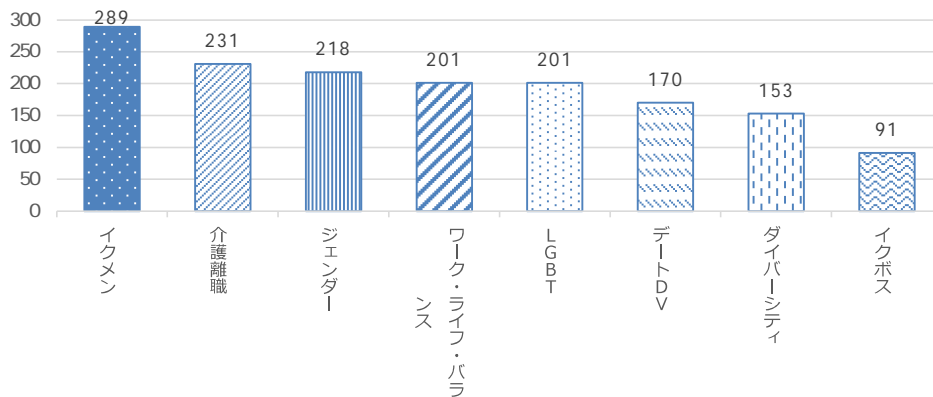
v. 社会全体

平等				不平等			
総数		男	女	総数		男	女
22	10%	10	12	198	90%	52	146



②男女共同参画に関するキーワード、あなたはいくつ知っていますか？知っている言葉にシールを貼ってください。

i. イクメン			ii. イクボス			iii. ワーク・ライフ・バランス			iv. ジェンダー		
総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
289	75	214	91	30	61	201	51	150	218	51	167
v. LGBT			vi. ダイバーシティ			vii. デートDV			viii. 介護離職		
総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
201	56	145	153	48	105	170	42	128	231	61	170



【自由記述】

<p>男女共同参画社会の認知度は確実にアップしているものと思われるが、まだまだ満足いく状況にはありません。国、社会（大中小企業）地域、家庭等々課題がある中で、狛江市に於いても積極的に推進している事を広報誌にて承知しておりますが、どのくらいの市民が広報誌を見て理解しているか推測できません。今後の取り組み推進に課題を残すものと考えられます。</p> <p>狛江市の取り組み状況を認知して貰うには、取り組み推進事項に大きくスポットを当てる事が必須であります。第三者委員会を設置して専門チームにて活動強化を図り、市民に狛江市の重要な政策として半端ない活動をしていることをアピールしていく。</p> <p>市の取組み→市民の理解不足・認知度不足→広報活動の強化（プロジェクトチーム）→市民の認知度アップ・理解力アップ→アンケート・市役所ロビー活動→課題抽出→市の取組みへ戻る</p>
<p>「男女共同参画」について全く知りませんでした。ホームページや参考資料を見て少しわかりました。基本法が施行されたのが19年前、狛江市で推進計画が策定されたのが8年前ということでしょうか。実りある成果が得られますよう願います。</p>
<p>一律平等にするのではなく、男女特性を考慮して補完的に機能するように組織化するべきです。ただ、そうした議論は実は正論ですが、個人の特性や価値観の違いでなかなか相補的補完的に組織することは難しいのが実情です。しかし、本質的に考えれば、男と女がいるのは生物学的に本来そうあるべき（補完的・相補的）であるのだから、原点に戻ってそうした枠組みを整備・創造することが実は重要なような気がします。</p>
<p>意識して、積極的に進めていかなければならない、と思っています。</p>
<p>アンケートにある男女の問いについては、例えば介護されるなら女性にしてみたいという問いでは、回答者が女性だった場合の女性と、介護される側が男性だったとして、介護してくれる女性を希望するのでは、意味合いに大きい差があると思われる。アンケート形式なので設問に限界があると思われるが、女性が介護される場合で男性が介護するケースの利点、その逆の利点などをしっかり議論・ケースワーク・ロールプレイングできるような環境があると、男女参画の質的な意味合いもあるのではないかと。</p>
<p>「男女共同参画についてご意見やご提案がありましたらお書きください」という設問は、ちょっと設問が漠然としていませんか。優秀な狛江市の職員の方がアンケートを作っておられるのですから、もう少し具体的にポイントを絞って意見をお聞きになるほうがよいと思いますが、設問1も、やや曖昧です。「子どもと1日過ごせる」とどういう意味でしょうか。「仕事のない休日に自分の趣味を我慢して1日子どもの相手をする」ということでしょうか。それを「たまにする」人をどう思うかという設問なのではないかと。</p>
<p>男女平等にあたり、女性の体の特有のこと（妊娠に関連など）を念頭におき、その上で、男性が女性のことを考慮する。また、少子高齢化社会に少しでも、抑制するために行政や企業において20代から40代対象にした出会いの時間の確保すること。次に、結婚し、子どもができた際に税金を優遇したり（その対象は積極的に出会い場を増やす時間を確保し、結婚しても働きやすい環境に努力を惜しまない企業も含む）、または、働く時間、育児にかかわる補償やサービスの充実、生活面のサービスを創る。こういう環境下で、高齢者に子どもとふれあう環境をつくることにより、社会全体が明るくなると思われま。</p>
<p>男女平等な社会作りを目指していただきたいです。</p>
<p>特にありませんが、今回のアンケートは適切でしたよ。</p>
<p>男と女は、役割が別であり、すべて同じようにはできない。それは役割が違うのであり、不平等と錯覚してはいけない。</p>
<p>男女平等が必ずしも是であるとは思わない。男性の持っている良さ、女性の持っている良さをお互いに尊重し、互いに支えあいながら、それぞれの特質を活かされ、また他を認め合い、それぞれの役割を果たしていきける社会の在り方がよいのではと思う。もっと言えば、男性、女性という枠を越え、そんなことは気にせず、その人の個性が活かされる社会の在り方がよい。ただ、今はそれに向かっていく過渡期で、まだ初期の段階であるとも感じられ、社会全体の中に、根付いていない部分もあり、男女（セクハラ）差別や、「いじめ」「偏見」の対象となりうる可能性も否定できないことから、公に自分の考えを明らかにすることについては、慎重にならざるを得ない。今後、教育等で、いかに根付かせていくかという事が大事ではないかと、と思う。</p>
<p>過度な平等を実現する必要はないと思う。</p>
<p>男女共同参画という言葉が難しすぎるのですが、男女平等を、職場・家庭・地域すべての面でサポートすると解釈しています。要は一人で取り組むのは難しいという事。国際婦人デーが日本ではまだ公認されていないのはなぜでしょうか？まだまだ男女差別がある国柄、一步一步進めていくしかないと思いますが、まずはここから。60代の私が共稼ぎをしていた頃とは違う問題を抱えています。子育て・保育所・そして介護、小さな家庭だけでは背負いきれなくなった事態を、地域ぐるみで解決していけたらと思います。男女問わず、老若男女の隣近所での取り組みが出来れば、孤独な育児も介護もなくなるのではないのでしょうか。</p>
<p>男女共同参画という言葉の意味もよくわからず、関連する言葉も知らないものが多くありました。でも最近ではテレビのドラマやトーク番組などでも取り上げられていて、以前よりも特別なことというような意識が少なくなったと思います。それだけでも少し良いことだと思います。</p>
<p>自分が社会人になった10年前では想像もしていない社会になっている。と感じる。10年前には保育園の送り迎えをお父さんがするケースは非常に稀だったが、今ではお父さんが送り迎えをするケースも多いと感じる。狛江市には初めてお母さんになる人向けのプログラム（BP）があるように、初めてお父さんになる人、2人目の出産で初めて育休をとる人など、「男性向けのサポートプログラム」が1dayでも良いので、あれば感じた。</p>
<p>中小企業の場合、社員のワーク・ライフ・バランスの配慮がある会社が少ないのが実情で、過重労働を強いられている人は仕事以外のプライベートな時間に労力を費やすことが難しくなる。過重労働を強いられているのは男性が多いため、そういった夫を持つ妻は家事労働が増え、社会進出を阻まれるという構図になると思う。どんな会社、職業に対しても過重労働者が無くなる社会にならないと男女共同参画は実現しないのではないかと。</p>
<p>若い世代はジェンダーレスになっていっているのを感じます。対して年齢が上の人たちは当時の教育との違いから価値観がびっくりするぐらい違います。当時はそれが普通だったので、わかりあえる日は来ないでしょう。男女は平等になんて絵空事です。違いすぎるのだから。でもお互いを認めて足りないところを補う関係になればより良い世になるのだと思います。</p>
<p>介護や地域活動と一口に言ってしまうと平等とは言いにくい面もあるが、男性の方が上手な点、女性の方が上手な点があると思う。（個人の性質にもよる）どちらも参加することで、うまくいくことも多々あるのではないかと。</p>
<p>日常のあらゆる性差別にもっと敏感になって、差別をなくすように啓発することが肝要と感じます。まず政治家の差別をなくし、女性の声が対等に反映される環境を構築すべきです。</p>
<p>男性の育児休暇の積極的取得を押し進め、男女が一緒に子育てする事、また介護中の人も同様に時短で働けるように多様性のある働き方を推進して欲しいです。完全な平等は難しいですが、役割分担はできると思います。</p>

<p>男女共同参画は、女性が活躍することであると捉えられている気がします。女性の活躍を推進するには、男性の意識と生活スタイルが変わらなければ男女共同参画は進まないと考えます。</p>
<p>日本社会は、まだまだ、男女の役割分担意識が強いと感じています。子どもの教育現場においてはもちろん、家庭においても、次世代の意識を変えて行く取り組みを実施していくべきだと思います。(父親・母親の意識を変えていけるといいと思います。)</p>
<p>社会生活の中での男性の役割、女性の役割がある。自然界で生きる人間としての根源的な役割を無視してはいけなと思っています。経済最優先だけではなく、人間としての生活の質、生きる歓びに目を向けられようになると良いですね。当たり前人間として生きられる質の高い社会。男女共同参画という思考が男女の不平等さをより誇張させるためのトレンドのように感じております。政府が女性を働かせたいという前提に振り回されたくないです。世界規模で日本という国、日本人という民族性を捉えられるマクロな視点が入ると良いですね。</p> <p>日本以外の国では民族の種を残すことに一生懸命です。では、日本は？そのような時代背景や子どもの将来を考え、日本人の根源的なところに興味湧いてきております。縄文時代はなぜあんなに長く続くことができたのか？など。そんな風に大きくみるとまた面白いですよ。男性が～女性が～なんて可愛いことでございます。それ以前に人間ですもの。寛容性。調和。気配り。日本人が得意なことです。子どもの声がうるさいだの、お年寄り邪魔だの世知辛い現代でございます。肩の力を抜いてしなやかにやわらかな心でお考えになれることを望みます。カチコチカッチンになりすぎご注意ください(笑)すこやかにまいりましょ。</p>
<p>まずは、個々の家庭で男女共同に動いてみると良いと思う。家事、育児、介護、その他普段自分のやることではないと遠慮していること、遠ざけていることをやってみる。それが後々社会への男女共同へつながっていくのではないかな。</p>
<p>日本は未だに、政治の世界も経済の世界も、民間の企業風土に至るまで、既得権益を手にした者がそれを持ち続けるためのシステムが構成され、連綿と引き継がれている社会だと感じます。構造がそうある限り、伝統的な男社会の常識はなかなか改まりません。経済が好調な時代にお飾りとして導入された男女共同参画が、ここ労働力構成が変わる現在に至り、現場をどうするかという問題に直面して初めて一般の問題に還元され始めたばかりのことです。女性労働力は過去永らく、GDPにのらない家庭内の家事・育児・介護サービスとして経済の裏側に沈潜していました。無償でそれらを担った女性労働力が今後有償労働へ向かうなら、家庭の維持・世代の維持に必要な労働サービスを有償で経済の表側から調達せざるを得なくなるのは、30年前から自明のことです。</p> <p>分かりやすく男女の別で申しましたが、これは男女に関わりなく関与する社会問題です。過去に多くの男性がタダとみなしていた家庭内労働は、経済の表側に出してみると需要に比して対価が安すぎる。だから働き手が足りない。労働力の市場原理を考えれば当然のことです。育休や時短といった一般に導入されている制度は、家庭に必要な労働や時間をタダでやるべき「負担」と考えています。ひいては子どもや老人という「負担」を抱える家族のための制度だと。本当にそうでしょうか？次世代の大切な卵たち、恩ある全世代のご老人方はただのお荷物ですか。「負担」を分担するという発想では、ワークライフバランスの理念は到底理解されないと思います。</p> <p>無償労働の価値を、日本人は概して過小評価しがちだと思います。ボランティアや寄付も、アメリカなどに比べたら全く評価が低い。しかし、人間が家庭を持ち社会の中で人生を送ろうと思えば、生きる場所にそれなりのプレゼンスがなければいけません。ボランティアは生きる場と絆を結ぶ最適な機会です。仕事をしてお金を稼ぐ場所しかない人は、そこでしか生きられません。役に立たなくなれば必要とされない。だから権力者がしがみつきます。長時間拘束されて働いても暮らしが楽にはならない、日本は貧しい国ですね。</p> <p>だからこそ、豊かに生きるために必要なのはアイデアと工夫です。考え方を変えることが幸福感を変える大切な一歩だと考えます。子どもや老親がいよいよといまいと、男でも女でもマイノリティでも、多様な労働者が多様な働き方を許容されることこそ健全な労働形態だという目標地点が大事だと思います。</p>
<p>わたしは環境的に恵まれているのか、男女共同参画といっても議論する内容が検討もつきませんので一度、機会があればフォーラムに参加してみようと思います。</p>
<p>児童虐待など、心が痛い事件がふえています。本当に困っている人、悩んでいる人がしあわせになれる社会になったらいいと思います。</p>
<p>仕事と家庭の両立ができるような環境を進んで作る社会だったら、みんなが活躍できると思います。</p>
<p>この度、6月18日(月)から御庁舎内2階ロビーにおいて、「男女共同参画週間に因む「ロビーパネル展」が開催されましたが、大変有益でした。当日は大阪の地震発生に加え、梅雨寒のため、初日の入場者は少ないものの、今後増加が予想されます。「性別のハードルを超えてクリエイト」</p>
<p>DVで離婚しました。子どもはまだ学校に行っていました。離婚後、父の会社の借金を背負いました。でも離婚してよかった。お金の問題はありますが、DVは親もそうだった。本人自身では解決できません。子どもも同じになるかもしれません。DVは本人の力ではどうすることもできません。</p>